



▲左:マガン(性不明・幼鳥) 右:カリガネ(性不明・幼鳥) 2018年1月17日 さぬき市 PHOTO©川崎知子

県内3例目の渡来

カリガネ *Anser erythropus* は稀な(irregular visitor)冬鳥として日本に渡来しますが、四国(香川、愛媛、高知)ではより珍しいカテゴリー(accidental visitor)とされています(日本鳥学会, 2012)。四国では、迷鳥と言って良いでしょう。

香川県では、1990年11月18日に丸亀市川西町北道池で1羽(年齢不明)が確認されたのが最も古い記録です(四国新聞社, 1996)。この時は続く観察報告はなく、1日だけの滞在だったようです。渡来月も早いことから通過個体だったと思われます。

第2例目は、2005年4月15日～17日、高松市新川で、ヒドリガモに混じって砂洲にいた個体が観察・撮影されています(福島, 2005)。写真では1羽が確認でき、年齢については「若い個体」と記述されています。この時も、やはり3日間だけの滞在でしたので、4月という時期から考えて、別の場所(県内か県外は不明)で越冬していた個体が通過中に確認されたものと考えられます。なお、この冬にはヒシクイも渡来しており、ガン類が例年になく広域に移動していた年だったようです。

そして今回、さぬき市※に1羽が渡来しました。渡来記録が少なく、かつ前2回がいずれも短期間の渡来だったためか、前述のどちらかの記録のみを踏まえて「県内2例目」としている情報がネットでも有りますが、実際は上記の通り、県内3例目となります。

さて、前2回がいずれも極めて短期間の通過記録であった一方、今回は少なくとも2018年1月17日(本会スタッフの観察日)～3月18日現在まで長期間滞在している点が目を引きます。

何か怪我でも有るのかと心配されるところですが、通常の越冬地でも共に行動することが多いマガンも一緒であることから、1月以降の例年にない厳しい寒さの中、越冬環境として適していると思われます。ちなみに、

マガンが定期的に渡来する島根県では例年3月中旬以降に渡去するようですので、さぬき市のマガン・カリガネもそろそろ渡去する時期と思われます(ただ3月21日(春分の日)に全国的にぐっと気温が下がりましたので、もう少し滞在しそうですが)。

今回渡来した個体の齢は？

カリガネの雌雄は識別不能ですが、齢については、額の白色部、眼の黄色いアイリング、腹の黒斑がポイントで識別できます。成鳥では額の白色部が眼の上方近くまで及び、眼のアイリングが目立ち、腹の黒斑も複数あります。一方幼鳥では、顔の白斑は無いか有っても小さく、眼のアイリングは目立たず、腹には黒斑がないとされています(桐原ほか, 2000)。

今回の個体を見てみると、左胸付近に少し黒斑めいた部分が確認できますが、それ以外の各部位の特徴は幼鳥に一致しますので、素直に幼鳥と言って良いでしょう。ちなみにカリガネが成鳥の羽衣を獲得するのは、生まれて以降の第1回目の冬の終わってから夏の始めまでの間です(Madge, S ほか, 1988)、もしかすると左胸の黒斑は部分的に成羽に換羽しているのかもしれない。

一緒に行動している2羽のマガンも幼鳥ですので、今回の事例は、他の群と合流しなかった幼鳥の群が、厳しい寒さから逃れるべく、かなり南下してしまったのではないかと考えられます。そうすると来年以降の渡来はちょっと期待できませんが、何はともあれ、無事に繁殖地まで渡り、繁殖に参加できることを祈ります。

※執筆時点でまだ滞在中であることから、観察地の具体的地名については、伏せています。ご了承ください。

・1996, 四国新聞社 編集協力:(財)日本野鳥の会香川県支部. 香川の野鳥ウォッチングガイド

※渡来月までを掲載。渡来日は事務局岩田の手元資料による。

・2005, 福島永枝. かいつぶり(表紙・カリガネ), かいつぶり(256)2005年5月号、日本野鳥の会香川県支部

・2012, 日本鳥学会. 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会

・2000, 桐原政志, 山形則男, 吉野俊幸. 日本の鳥 550 水辺の鳥, 文一総合出版